

No.3	提 案 名：田川を起点としたにぎわい復興 ～FROM TAGAWA TO THE FUTURE～	
	提案団体名：宇都宮共和大学 シティライフ学部 まちまちサークル	
	所 属：宇都宮共和大学シティライフ学部	
	代 表 者：山本悠太	指導教員：坂口豪
メンバー	山本悠太 植木翔瑛 河俣大輝	

○ 提案の要旨

本提案は、田川を起点とした交流拠点を創出することを通じて、JR宇都宮駅西口周辺エリアのにぎわいの再活性化を目指すものである(図1)。提案にあたっては、まず、「宮桜祭」「みんな田川でバーベQ!」といった、田川を起点としたにぎわい創出のための独自イベントを実施し、現状の課題に関する実践的な知見を得た。加えて、本提案に関連する先行研究の整理、および宮の橋周辺を対象としたフィールドワークを実施した。以上の現状分析を基に、本提案では田川にぎわい協議会の発足、誰もが利用しやすい環境整備、独自の水害対策の3つの事業からなる『田川future design』プロジェクトという施策事業を提案する。

1. 提案の背景・目的

近年のLRT開通とそれに伴う市街地再開発事業の施行により、JR宇都宮駅東口周辺エリアは宇都宮市の新たな拠点として盛り上がりを見せている。また、JR宇都宮駅は宇都宮市の交通の拠点であり、多くの人々が利用している。しかし、宇都宮市(2012)¹⁾によると、JR宇都宮駅西口につながる大通りの歩行者通行量は減少傾向にあり、ピーク時の約1/2まで減少し、にぎわいが低下しているのが現状の課題となっている。JR宇都宮駅東口周辺エリアはライトキューブ宇都宮や宮みらいライトヒルといった交流拠点および交流広場を有しているのに対し、JR宇都宮駅西口周辺エリアには交流の拠点となり、イベントを開催できるような広場が存在しない。中心市街地における交流拠点や広場といった存在は地域コミュニティの創出の場として重要な機能があり、また観光など地域外からの来訪者と住民が一体となるコミュニケーションの場であるため、交流拠点・広場の質的拡充は街としての価値向上に寄与する。近年のコミュニティ意識の低下や、治安の悪化対策、あるいは青少年の健全な育成を促進するためにも、JR宇都宮駅西口における市街地再開発事業はこうした交流拠点を改めて整備するまたとない機会である。

そこで、私たちはJR宇都宮駅西口周辺に流れる田川と、隣接する田川遊歩道および宮の橋に焦

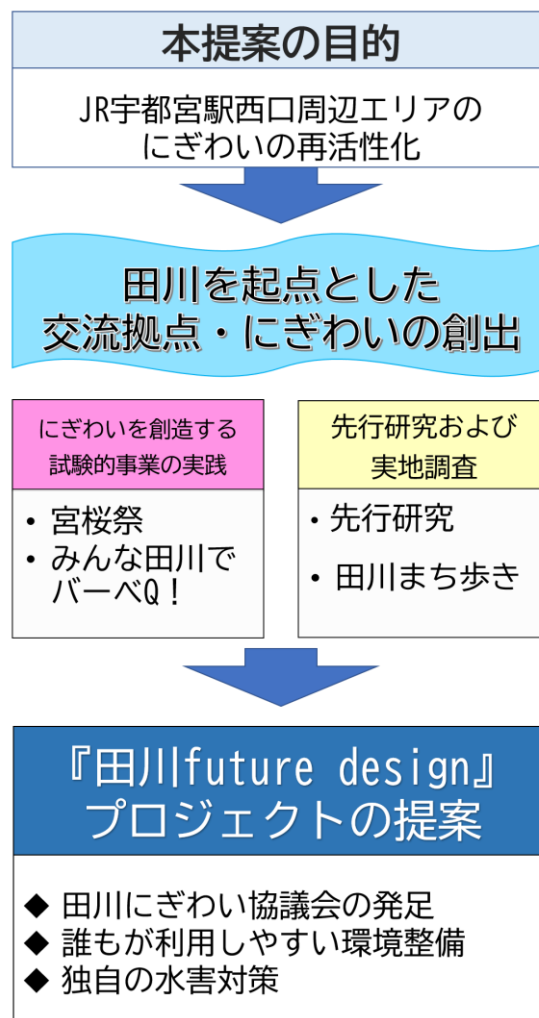


図1 提案の要旨

点を当てることにした。本提案は、LRT 延伸による西口再開発事業に伴い、田川周辺の再整備、ならびに田川周辺を交流拠点としたにぎわいの創造を目指すものである。

2. 提案の目標・課題「まちに広がる共創の輪～新たな価値の創造を目指して～」と

の関連

本提案の目標は「JR 宇都宮駅西口の再開発に伴いかつてのようになぎわいを田川に創出すること」であり、本提案を実現することで、「県都宇都宮の玄関口である JR 宇都宮駅前のシンボルとして田川を位置づけ、宇都宮市民はもちろん来訪者からも宇都宮駅前といえば田川というウォータースタジアムの街として認識してもらえる状態」を創り上げたいと考えている。

LRT の JR 宇都宮駅西口延伸も見据え、西口が再開発されるにあたり田川沿いのにぎわいを創出するための提案を行う。ハード面の提案は「まちづくり・都市デザイン競技」等で多くのアイデアが提案されている。今後は田川沿いにも整備が行われることが想定される。整備に伴い田川沿いの景観や機能にも変化が生じるが、その際にどのように「にぎわいを創出」していくことができるのか、ハード面のみならずソフト面の施策を熟考していくことが重要である。そのなかで、現状の田川でにぎわい創出の一環として各種イベントを行い、複数の課題を見出すことができた。田川のにぎわい創出をルーティン化するためには、連携組織の構築の必要性が浮き彫りとなった。これらの実践を踏まえて、本提案に至った。本提案は、田川とまちが一体となり「共創の輪」を宇都宮市に広げようとしている点に、課題「まちに広がる共創の輪～新たな価値の創造を目指して～」との関連性がある。

3. 現状分析

3.1 にぎわいを創造する試験的事業の実践

(1) 宮桜祭の開催

私たちは、2024 年 4 月 6 日（土）に「宮桜祭～2024～」と称して、地域住民の交流の場の創出を目的としたイベントを開催した（図 2）。2023 年 12 月下旬に宮桜祭実行委員会を発足し、その後 16 名の有志メンバーと共にイベントのための企画立案から準備、そして本番までの約 4 ヶ月にわたる活動期間を経て実現した。当日は「ライブステージ」「飲食出店」「会場装飾・ワークショップ」を提供した（図 3）。「ライブステージ」では、20～30 代の地元で活躍している 5 組のアーティストの方に、自身の持ち歌や流行りの音楽、有名曲のカバーなどで会場を盛り上げていただいた。「飲食出店」に関しては、地元の飲食店にご出店していただき「餃子」や「焼きそば」のほか、「地酒」や「クラフトビール」を提供した。また、学生出店として「三色団子」と「ソフトドリンク」も提供した。「学割」などの特典を交え、地元飲食店を認知してもらうとともに、その「美味しさ」を味わえる憩いの場を創出することができた。「ワークショップ」においては、子どもたちと「黄ぶなのシールアート」や「昔遊び」などをして、大学生と小学生が田川で交流することができ、有意義な世代間交流の機会となった。また、夜は「日産サクラ」等でライトアップをし、夜桜を彩った。宮桜祭当日は生憎の雨により来場者数の減少が懸念されたが、幸い多世代にわたる 600 人以上の来場者が訪れる結果となった。いろいろな世代に来場いただいたということは、それだけ幅広い年代の方からのニーズがあるということでもある。イベントを今後も継続的に行うことの価値は大いにありと改めて実感した。また、今回 5 つの企業や組織から計 15 万円ほど協賛金をいただき宮桜祭を開催したのだが、これは大学生と地域の企業、組織等が一体となった、共創のあり方の一つだと言える。持続的なまちづくり活動を行うには、こうした複数の団体が一体となった地域維持システムが不可欠であり、宮桜祭はその第一歩となったと考えられる。



図2 宮桜祭のチラシ



図3 宮桜祭の出店の様子

(2) みんな田川でバーベQ！

2024年6月9日、宇都宮共和大学の「みやガク」と二荒山神社にある「若者まちなか活動・交流センター」と共催で「みんな田川でバーベQ！」を開催した（図4.5）。このイベントの目的は、清掃活動とバーベキューを通じて地域の住民と学生が交流し、地域の景観美化とコミュニティの活性化を図り、にぎわいを創造することである。第1部は若者まちなか活動・交流センターでのワークショップを行い、若者と地域の交流の仕方について双方で意見交換を行った。第2部では田川遊歩道での清掃活動を行い、45L袋5個分のゴミを回収した。特にタバコなどのポイ捨てされたゴミが多い印象を受けた。清掃活動終了後、参加者交流会としてバーベキューを実施した。様々な世代の方と談笑を交え、有意義な時間を過ごすことができた。今回のイベントを通じて、



図4 清掃活動後の集合写真



図5 田川でバーベQ！の様子

多くの参加者が地域の美化に貢献するとともに、世代を超えて交流を深めることができた。

3-3. フィールドワーク

私たちは施策事業提案を検討するにあたり、さらなる課題を模索するために自分たちで田川遊歩道を歩く「田川まち歩き」を実行した（図6）。歩いた範囲は、我々の施策事業予定区域となる

幸橋から押切橋とした。「田川まち歩き」は 2024 年 10 月 28 日の 15 時から実行し、16 時までの 1 時間の間自分たちの足で歩き、課題を模索した。その、施策事業提案に向けて相応の成果を得ることができた。我々が特に改善すべきと考えた課題は、以下の 3 点である。

- ① 田川遊歩道に降りることができる階段が、幸橋～押切橋の間に、やきとん屋善、幸橋付近、押切橋付近の 3 ヶ所しかなく、人通りが 1 番多い宮の橋から田川遊歩道に降りるのに少し距離がある。
 - ② 田川遊歩道に降りるための階段が、3 ヶ所とも段差が急であり、高齢者や障がい者の方々にとって非常に不便である。
 - ③ 宮の橋の下が昼でも暗く、落書きなども見受けられた。ゴミも多く散らばっていたため、治安が心配であった。
- 以上 3 点の課題の解決も、施策事業提案に組み込めるよう、協議を重ねた。



図 6 田川まち歩きでの調査の様子

4. 施策事業の提案

これまでの分析結果を踏まえ、本提案では『田川 future design』プロジェクトという施策事業を提案する。本施策事業は、今後の田川が宇都宮駅西口周辺地区の交流の拠点となり、JR 宇都宮駅西口周辺エリアのにぎわいの再活性化を目指すものである。かつてのにぎわいを取り戻しつつ、西口周辺地区のさらなる発展と魅力創出のために、私たちはこの提案を通して田川の未来をデザインする。本施策事業では、田川にぎわい協議会の発足、誰もが利用しやすい環境整備、独自の水害対策の 3 つの事業を通じてにぎわいを創造し、田川に新たな価値を生み出す。

4.1 「田川にぎわい協議会の発足」

(1) 宇都宮市と栃木県の共創

田川遊歩道でイベントを開催する場合には、宇都宮土木事務所と宇都宮東警察署に許可をもらいにいかないといけない。宇都宮土木事務所では市役所などの行政関連のところから後援をしてほしいとお願いされた。後援がないと土地の使用料がかかり、また追加で書類を提出しないと、後援がないとイベントが開催しにくい状況にある。宇都宮東警察署では個人的な利用に捉えられると道路の使用許可がおりにくい現状がある。宇都宮土木事務所からイベントの開催許可が降りても、警察署ではおりにくいことがあった。理想としては行政施設間での連携を強め、申請のハードルを下げる必要性を実感した。実際、「みんな田川でバーベQ!」では各種行政機関にイベントを行うことを申請していたが、警察はそれを把握していなかったのか、通報により警察が駆けつける騒ぎとなってしまった。このようなことが頻発しているようであれば、安全かつ円滑なイベント進行は当然できない。宇都宮市管轄の行政及び栃木県管轄の行政はそれぞれ情報共有をして共通認識を持っていただきたい。また、宇都宮市役所、宇都宮土木事務所、宇都宮東警察署と市内の離れている場所にそれぞれに書類を提出しに行くのではなく、一か所で申請書類の提出が完結することが望ましい。

(2) 田川にぎわい協議会によるにぎわい創出の試案

私たちは「宮桜祭」や「みんな田川でバーベQ!」などのイベント活動を行って、定期的のにぎわい創造のためのイベントを行ってきた。しかし、これだけのイベントを行うには、それ相応の準備の時間と労力を要する。そのため、現状の組織体制では 1 年に 2～3 回開催するのが精一杯であり、継続的に行うことは極めて困難である。しかし、継続的ににぎわいがなければ、治安の維持や防犯などの効果は薄れてしまう。にぎわいを持続的に作っていくには、ある程度頻繁にこう

したイベントを開催することが望ましい。

そこで、私たちは「田川にぎわい協議会」の発足を提案する（図7）。まちづくりイベント等を開催する大学や企業、組織、および自治体などを包括的に巻き込み、継続的なイベントの開催を共創により実現する組織である。田川にぎわい協議会の中での各団体が担う役割は以下のとおりである。

「宇都宮市」に関しては、田川遊歩道の環境整備を、栃木県と協力し実行する。宇都宮市管轄の行政に田川でのイベント開催に関する書類を申請する際、その簡略化を促す。また、宇都宮市はホームページや広告など、宇都宮市内で強い発信力を有しているため、田川にぎわい協議会で開催するイベントをより多くの人に周知させることができる。

「栃木県」に関しては、田川を利用する際に必要な書類申請には栃木県管轄の行政に申請する書類もある。田川にぎわい協議会の中で栃木県と宇都宮市が協力することで、申請書類の提出がより簡略化され、イベントの開催がスムーズに行えるようになる。また、栃木県が協議会に加わることで、開催されるイベントの情報を栃木県全体に広めることが可能になる。

「大学生」に関しては、大学で学んだ知識や独自のアイデアを活用し、イベントの企画、運営を中心になって実行する。田川にぎわい協議会の中で、栃木県や宇都宮市、地域や企業を繋ぎ、交流の架け橋となることが期待される。また、田川にぎわい協議会で得た経験を糧に、大学生自身も大きく成長する機会を得ることができる。

「近隣住民」に関しては、規模の大きなイベントを開催する際には、大学生だけでは力が及ばない場合もある。そのような際に周囲の大人が協力してくれるとありがたい。また、地域の方々の持つ知識や経験は、大学生にはないものが多くあり、大学生はさらなる学びを経て、田川にぎわい協議会自体が交流の場となる。

「企業」には田川にぎわい協議会のイベントに協賛してもらう。宮桜祭では、5つの企業、組織からの協賛として資金援助していただいたり、飲食店に出店していただいたりした。企業や組織が協賛や出店してくれることにより、イベントの規模を拡大することができ、企業も自社のPRをすることができる。また、企業が田川にぎわい協議会に参加することで、企業も田川でイベントを開催でき、田川にぎわい協議会はそれを支援する。

この組織を主体に毎月、田川遊歩道においてイベントを開催することで、持続的ににぎわいを創造することが可能となる。図8のカレンダーは、仮の計画を示したものである。図8の通り、その月や季節に応じたイベントを月ごとに異なる組織や企業、大学などが単独、または共同でイベントを開催することで、個々の組織や企業等のみでは実現困難だった継続的なイベント開催が実現できるようになる。また、共創により今までにないアイデアや構想が生まれ、新たな価値の



図7 田川にぎわい協議会のステークホルダー

年間イベントスケジュール			
1月	田川まち歩きフェスタ	2月	田川まち歩きフェスタ
3月	田川まち歩きフェスタ	4月	田川まち歩きフェスタ
5月	田川まち歩きフェスタ	6月	田川まち歩きフェスタ
7月	田川まち歩きフェスタ	8月	田川まち歩きフェスタ
9月	田川まち歩きフェスタ	10月	田川まち歩きフェスタ
11月	田川まち歩きフェスタ	12月	田川まち歩きフェスタ
※毎月、第3日曜日に開催！			

図 8 田川にぎわい協議会によるイベントの年間カレンダー

創造にもつながると考えられる。さらに、田川にぎわい協議会の構成員として栃木県土木事務所と宇都宮東警察署を含めることで、協議会の中で一元的にイベント等の申請と承諾がスムーズに行われることが理想的である。

4.2 現状の田川遊歩道における環境整備への提案

(1) 遊歩道拡張

「宮桜祭」や「みんな田川でバーベQ!」は、宮の橋北側の田川遊歩道にて行った。その際感じたのは、田川遊歩道は集客を伴うイベントを行うには狭すぎるということだ。実際、宮桜祭では飲食店を出店したが、飲食店のテントで田川遊歩道の幅の半分以上を使用している状況であった。飲食店の飲食物の購入を求めてお客さんがテントの前に並んでしまうと、田川遊歩道の幅を全て埋めてしまいランニングや犬の散歩をしに来ている人の道を塞いでしまうかたちとなってしまった。通行客が来るたびに道を開けるよう指示を行うことになり、お客さんの満足度を下げてしまうことになりかねない。また、リピーターの減少にも繋がり、持続的なイベントの開催は困難になるだろう。西口のにぎわいや市民の交流の場創出のために行っているイベントで、一部の市民に迷惑をかけてしまうことは本末転倒であるとも言える。そこで、私たちは田川遊歩道の拡張を提案する。具体的には、1～2mほど拡張したい。それによって、通行客に迷惑をかけることなくイベントの開催や飲食店の出店等を行うことができるようになるであろう。また、円滑なイベントの運営・進行が可能となり、お客さんの満足度も上昇するため、リピーターも獲得しやすい。よって、持続的なイベント開催が現実的となり、安定的なにぎわい創造や交流の場創出が可能となる。また、道幅が広がればキッチンカーなども安全に侵入することができるようになるため、出店店舗のバリエーションが広がるとともに、イベントのマナー化も防ぎ毎回のイベントに新鮮味を持たせることができる。

(2) スロープの設置

宮桜祭、田川バーベキューの際に備品の搬入に不便であり苦労したこと、田川まち歩きの際に課題の1つとしてあげた階段が急であり、高齢者や障がい者の方々にとって非常に不便であったことを踏まえ、私たちは宮の橋付近に田川遊歩道に降りるスロープの設置を提案する。荘内日報社（2022）²⁾によれば、2022年に赤川河川敷に新設されたスロープは、滑らないようにざらざらとしたアスファルトを採用し、夏の猛暑でも手すりが熱くならないように樹脂で覆うなど工夫がなされていた。田川遊歩道にスロープを設置すれば、高齢者、車椅子を利用する障がい者の方々が今よりさらに利用しやすくなる。また、田川遊歩道でイベントをする際、備品の搬入が更に快

適になるため、スムーズなイベント準備が可能となり、ひいては継続的なイベント開催に繋がる。防災の面では、万が一急な増水や地震などが発生した際、防災用坂路として利用でき、迅速な避難行動に貢献できると考えている。以上のことから、宮の橋付近にスロープを設置することを提案の1つとしてあげることとする。スロープがあることで田川遊歩道が今より快適にだれもが利用することが出来るようになると、私たちは確信している。

4.3 ハザードマップの可視化—私たちの身近な川とうまく付き合うために

宇都宮駅西口のにぎわい創造に田川遊歩道を利用するにあたって、最も懸念されているのが田川の氾濫による水害である（図9）。図10は2019年10月に起きた台風19号の豪雨による浸水被害の際に、東橋水位観測所が観測した水位のデータである。最高時間水位は堤防高よりも高い5mを超え、宇都宮市街地で溢水氾濫が発生した。よって、栃木県や宇都宮市は田川の水害対策として調節池整備、河道掘削、堤防整備などを進めている。



図9 宮の橋周辺における氾濫の様子
(栃木県県土整備部河川課から引用)

<水位状況>

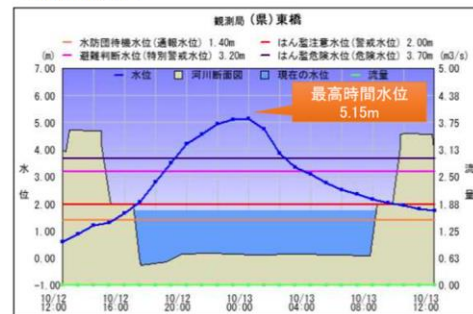


図10 東橋水位観測所における水位
ハイドログラフ
(栃木県県土整備部河川課から引用)

これらを踏まえると、これ以上のハード面での対策、および施策提案は困難だと考えた。そこで、私たちはソフト面での対策に切り替え、田川で水害が発生した際に周辺市民の助けになりそうな対策は何か協議を重ね、1つの結論を導いた。

私たちは、田川周辺の水害ハザードマップを田川を利用する人々に認知してもらうため、石碑として設置することを提案する。ハザードマップは市のホームページや自治体による配布などで見ることができる。しかし、わざわざホームページのハザードマップを頻繁に確認したりするような人はそう多くはない。田川遊歩道にオブジェとして設置することで、田川を利用する人々に受動的にハザードマップを見せることが可能となり、より効果的に認知してもらえらるとともに、市民に普段から防災意識を備え付けることができると考えた。図11は宇都宮市防災ハザードマップをベースに実際にパワーポイントで作成したハザードマップの石碑の例である。石碑であれば、水害で遊歩道が浸水した際も流される心配がなく、遊歩道の景観を損なうこともないと考えた。また、このハザードマップの情報が最も必要な、日頃から散歩などの理由で遊歩道を利用する近隣住民の方々に見てもらうことができる。石碑型ハザードマップは、景観に配慮しつつ、田川を利用する人々に田川の水害対策を伝えられるので、大きな効果を発揮することができると考える。



図11 田川遊歩道に設置する田川ハザードマップのイメージ
(宇都宮市防災ハザードマップから引用)

【参考文献】

- 1) 宇都宮市：JR 宇都宮駅西口周辺地区の現状及び課題について
https://www.city.utsunomiya.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/009/337/kadai.pdf, 2012 年. (2024 年 8 月 6 日閲覧)
- 2) 荘内日報社：赤川河川敷にスロープ完成 住民代表ら視察会「道幅広く安心」と好評,
<https://www.shonai-nippo.co.jp/cgi/ad/day.cgi?p=2022:06:08:11120>, 2022 年. (2024 年 11 月 15 日閲覧)
- 3) 宇都宮市：宇都宮市防災ハザードマップ(洪水・内水・土砂災害・ため池)
http://www3.city.utsunomiya.lg.jp/utsunomiya/hazardmap/book/#target/page_no=1, 2024 年. (2024 年 11 月 17 日閲覧)
- 4) 栃木県：令和元年 10 月台風 19 号による浸水被害について
https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/tagawakentoukai/documents/03-tagawakentoukai-siryou2_1.pdf, 2019 年. (2024 年 11 月 17 日閲覧)